明治七年六月十七日

西深ニテ取調ヲ命

但

改正官位職制

六至五位ハ評議ヲ以

不均之処

大蔵省

大正十一年四月
大蔵省
華族課
4028

八十九

明治七年六月十七日

つ

輔　松方正義

安藤信正

改正局

改正局急務條例

太至急所評議事件

不埒ニ付免職

大蔵省

大正十一年四月
華族侯爵邸寄贈
4028

414
A 2010

改正局急務條議

大藏省

改正局急務條議

緒言

方今地租改正ノ業ニ於テ急ニ議決セサル可ラスシテ未タ議決ヲ経サル者四條アリ一ニ曰本局ノ體裁ヲ更革スルヿ二ニ曰未決ノ各款ヲ議定スルヿ三ニ曰改正ノ順序ヲ立ルヿ四ニ曰市街郡村ノ税率ヲ一ニスルヿ各條左ニ論列シテ以テ高裁ヲ乞フ伏ノ願クハ一切ノ両断是非得失ノ在ル所ヲ裁定シ各人ノ方向ヲシテ歸着スル所アラシメンヿヲ併

テ雜稅改革ノ議一篇ヲ上呈スヽ亦以テ參考ノ一端ニ供スヘシ議者謹テ識ス

第一議

本局ノ體裁ヲ更革スヽ

理財ハ經國ノ要務ニシテ收稅ハ財政ノ根基ナリ故ニ理財收稅ノ術一タヒ其用ヲ誤ルすハ上改令萬機ノ活動ヲ沮格シ下民心ノ信賴ヲ失ヒ民力ノ凋衰ヲ釀サル者殆ト希ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ方今地租改正ノ如キハ我政府ノ一大事業ニシテ大臣閣下ノ最注意若慮セサル可ラサル者ナリ明治六年ノ秋地租改正法ヲ頒布セラレシ以來本寮其事ニ擔

當シ別ニ改正ノ一局ヲ置キ専ラ之ヲ整理
セシムト云ヒ其體タルヤ小ニ其権タルヤ微ニシテ
未タ以テ此大事業ニ當ルニ足ラス之ニ加フルニ
内務大蔵両省ノ分立スルニ及ヒ権限或ハ両
省ニ渉ルヲ以テ合議照會ノ間多少拘攣
淹滞ノ弊ヲ釀成シ各地方官ヲシテ屢其
機會錯置ヲ誤ラシムルニ至ル嗚呼此ノ如クニシテ
等閑歳月ヲ度ラハ特ニ此業ノ宜キヲ得サル
ノミナラス官民其勞費ニ倦怠シ弊害物議
其間ニ百出シ廟議或ハ之カ為メニ變換シ億

兆モ亦之カ為メニ疲弊困頓スルニ至テ已マン伏メ
願クハ此業ノ至大至難ニシテ他ノ尋常事務
ト同一視ス可ラサルヲ察シ内務大蔵両省ノ間
別ニ地租改正事務ノ一局ヲ置キ局長一名ヲ
撰テ此業ニ専任セシメ事両省ニ関渉スル者ト
云ヒ地租改正法ニ掲載スル所ノ各款ハ渾テ
此局ノ専管掌理スル者トナシ法規ヲ變更
スルノ外ハ一切局長ニ委任シ改正ノ業遂テ終ハ
隨テ主任ノ各省ニ送致シ踵厲風發數年
間ヲ期シテ以テ大成績ヲ奏セシメン此ノ如クニ

シテ後始メテ能ク億兆ノ倒懸解ク〳〵キヲ
地租ノ偏畸均一ナラシムヘキ也上文ニ所謂民心ヲ
失ヒ民力ヲ凋衰スルノ禍免ルヘキナリ是ヲ地租
改正第一ノ急務トス

第二議

未決ノ各款ヲ議定スルヿ

地租改正法中ノ細目更ニ議決ヲ要スヘキモノ
五款アリ左ニ條列シテ以テ高裁ヲ乞フ

第一款　地價ニ二種アル事

地價ニ二種アリ土地ノ實利ヲ確定シ規則上ノ
利子ヲ以テ筭出スルモノ之ヲ實價ト云フ人民ノ
好惡求需ノ緩急ニ因テ相低昂スル者之ヲ
賣買價ト云フ地租ハ必ス實價ニ賦スヘク賣買
價ニ課スヘカラス何ドナレハ其賣買價ナル者ハ

目今ニ在テ決シテハ知能ワサルノミナラス之ニ地税ヲ
賦スルカ如キハ大ニ公平畫一ノ旨ニ反スルモノアルヲ以
テ也

第二款　地價檢査ニ用ユル米價ノ事

地租改正ノ後五年間ハ當初ニ定ムル所ノ
地租ヲ以テ定額トスル上ハ地價檢査ニ用ユル
米價ハ各地既往五年間貢納石代相場ヲ
平均シテ用ユヘシ

第三款　畑　畑收穫ノ事

畑ハ二作三作ナル者アリト云ヒ地租改正ニ用ユル
所ノモノハ
査スヘシ
實收ス
難ク徒
地價ヲ定メンニ付テハ畑ハ其一作實收ノ和高ニ準ズベシト
イヘ共茶畑ノ如キハ特ニ地租改正ノ歳ヨリ
向フ三五ケ年間ハ一視シ稲ノ如キ成木ニ芳費ヲ
償ハシメ麦ノ如キハ一般ニ高ニ課ヲ
茶茶
月モ
議アリ
意ヲ
別ニ厚
出サシメテ之ヲ免ス又物産ノ地税ハ
早晩之ヲ無サンヲ望ム
畑ノ地租ヲ改正スルニ當リ
其ノ細ニ於テハ皆畑産苦預ヲ知
ラ者シテ可ナリ
頃ノ主旨ノ地

目今ニ在テ決シテ知ル能ワサルノミナラス之ニ地税ヲ
賦スルカ如キハ大ニ公平畫一ノ旨ニ反スルモノアルヲ以
テ也

第二款　地價檢査ニ用ユル米價ノ丁

地租改正ノ後五年間ハ當初ニ定ムル所ノ
地租ヲ以テ定額トスル上ハ地價檢査ニ用ユル
米價ハ各地既往五年間貢納石代相場ヲ
平均シテ用ユヘシ

第三款　畑收穫ノ丁

畑ハ二作三作スル者アリト云ヒ地租改正ニ用ル
所ノモノハ本毛一作ヲ以テ準據トシ精確ニ調
査スヘシ何トナレハ畑ハ勞費最多キカ為メニ其
實收スル所ノ者ヲ得シト欲スルモ其事タル頗ル
難ク徒ニ勞費等ノ紛議ノミヲ來スヘケレハ也

第四款　桑茶畑ノ丁

桑茶畑ハ其利益最多ク其培養成木ノ歳
月モ亦最久シトス其地價ヲ筭スルノ法各種ノ
議アリト云ヒ暫ク物産蕃殖ヲ勸奬スルノ趣
意ヲ以テ近傍類地米麥ヲ植ル者ト同一視シ
別ニ厚税ヲ賦セサルヲ法トスヘシ

既決

桑茶畑地價ハ附リ仮見

米麦相場サレメ
トスヘカラ加キ
既ニ先般
考アリ

賓收スル所ノ者ヲ得ント欲スルモ其事タル頗ル
難ク徒ニ勞費等ノ紛議ノミヲ来スヘケレハ也

第四款　桑茶畑ノ一

桑茶畑ハ其利益最多ク其培養成木ノ歳
月モ亦最久シトス其地價ヲ算スルノ法各種ノ
議アリト云ヘ暫ク物産蕃殖ヲ勸奬スルノ趣
意ヲ以テ近傍類地米麥ヲ植ル者ト同一視シ
別ニ厚税ヲ賦セサルヲ法トス（シ

桑畑地價ノ方ハ嚮キ・鄙見ニ附ク・但是多觀決定アラ

米麦相當ノ地ニハ收
サレ桑茶ノ場所ハ都
ト[illegible]如キハ公平書面一ノ
既ニ先般回議ニ答ヒ
考アラシテ布

畑ハ大概麦代ヲ以テ本年ヨリ
之ニ照シテ一畝ノ租ヲ收ス
實際麦ヲ代ラズシテ和ヲ
ト議ル所ナリ実代中
ニ依テ地價ヲ査定セ
ル者ハ固ヨリ如ク
桑茶畑ニ至テハ
半麦地ト同一視スヘ
何トナレハ地力ノ植物ハ皆物産ニテ只
桑茶ノ利ヲ最大トスルノミ
ギノ趣ニテハ雑代トイヘ
又ハ歩ノ如キ実代ヲ
ベシ但シ桑茶ハ年月ヲ
モノニテ他ノ雑
費モ亦サクベカラズ仍テ
地價ヲ定ムルニ一律
イヘ桑茶畑ノ如キハ特
間ノ三五ヶ年間所謂
ルモノト同一視シ
償ハモメ
出サルメテ
早晩之ヲ無サンヲ
畑ノ地租ヲ改正ノ歳
変ノ徴ニ
ヲ為ス

雑代ハ皆雑税ヲ
直稱ムベキ
ニアラズ故ニ其培養ノ労
代ヲ以テ定ムル
畑ハ
地租改正ノ歳ヨリ
地ハ麦ヲ植ル成木ノ労費ヲ
又物産ノ賦税ハ
地ハ物産蕃殖ヲ勧
頃ノ

作ヲ以テ準據トシ精確ニ調
レハ畑ハ勞費最多キカ為メニ其
者ヲ得ント欲スルモ其事タル頗ル
員等ノ紛議ノミヲ来スヘケレハ也

款　桑茶畑ノ丁

利益最多ク其培養成木ノ歳
トス其地價ヲ筭スルノ法各種ノ
ク物産蕃殖ヲ勸奬スルノ趣
類地米麥ヲ植ル者ト同一視シ
知セサルヲ法トスヘシ

ル者アリト云ヒ地租改正ニ用ル

款　畑收穫ノ丁

作五年間貢納石代相場ヲ
ン

桑茶畑地價ノ方ハ嚮キ、鄙見ノ述諸議ト共ニ回議
附セリ仮是参觀決定アランヲ乞

麥ハ本毛トシ麥ハ雜穀皆
一反ノ租ヲ納ムヘシ法ノ如シ
麥ヲ代ラシメテ
雜穀ハ地ノ
畑ノ租ヲ代ル
地價ヲ筭定シ固ヨリ
茶畑ニ比シ
地ト同一視スヘカラス
地ハ其産物ニテ只
利ノ最大トスルヲ
雜穀トイヘトモ
畑ノ如ク實穀ヲ
茶ハ月ノ久キニ
地ハ雜穀ノ如ク
茶畑ノ如キハ特ニ地租改正ノ歳ヨリ
五ヶ年間所在ノ地方ニ於テ茶麥ノ植
回一視シ稅ヲ徴スヘキ成木ノ労費ヲ
一反ノ實穀ノ租ニ準ズベシト
畑ノ如キハ特ニ地租改正ノ歳ヨリ
麥ハ地ノ肥瘠ニ
畑ノ如ク實穀ノ
雜穀ハ
地ノ
利ヲ收ムヘキ
故ニ其培養ノ労
ミヲクベカラズ
仍テ茶畑ニ見ル畑ハ
一反ノ實穀ノ租ニ準ズベシト

米麥相當ノ地ニ收利高ノ稅ヲ出
サレメ茶ノ僞物ハ却テ詐稅ヲ賦セシ
トカ如キ公平書一ノ旨又何クニカ在ル
既ニ先般回議ニ管見ヲ陳セリ宜シク
參考アラシコトヲ希望ス

第五款　山林地價ノ丁

山林ハ年々ノ收利ヲ知リ難キモノ多ク地價ヲ筭出スル最難シ若シ又直ニ賣買上ノ代價ニ因テ賦稅スル寸ハ百分三ノ稅率或ハ過重ニ渉ルモノアリ故ニ賣買代價中木材ノ代價ヲ除去シ真ノ地價ノミヲ得テ之ニ賦稅スヘク其賣買價ノ照應ナキモノハ鑒定人ヲ設ケテ之ヲ定メシムヘシ

右各款議決ヲ經ハ之ヲ正院ニ上申シ之ヲ別報ニ上載シ以テ實際着手ノ根據ト為サン是ヲ地租改正第二ノ急務トス

第五款　山林地價ノ丁

山林ハ年々ノ收利ヲ知リ難キモノ多ク地價ヲ筭出スル最難シ若シ又直ニ賣買上ノ代價ニ因テ賦稅スル寸八百分三ノ稅率或ハ過重ニ渉ルモノアリ故ニ賣買代價中木材ノ代價ヲ除去シ真ノ地價ノミヲ得テ之ニ賦稅スヘク其賣買價ノ照應ナキモノハ鑒定人ヲ設ケテ之ヲ定メシムヘシ

右各款議決ヲ經ハ之ヲ正院ニ上申シ之ヲ別報ニ上載シ以テ實際着手ノ根據ト為サン是ヲ地租改正第二ノ急務トス

既決

第三議

改正ノ順序ヲ立ルコト

本局ノ體裁一定シ未決ノ各款議決セハ各縣地租改正着手ノ順序ヲ立テ以テ成蹟ノ目的ヲ定メサル可ラス夫變法ノ始ニ當テ速成ヲ要セサル固ヨリ論ナシト云ヒ是特ニ調理上ノ精密ヲ要スルノミ其既ニ廟議一決スルノ後之ヲ實際ニ施行スルニ至テハ同一政府ヲ以テ同一人民ニ對シ同一地租ヲ改ムヘキ豈因循遲疑今年ニ縣ヲ正シ明年三縣ヲ改メ數年

所ヲ經ルノ後始メテ一總變換スルノ理アランヤ
特ニ其理ノ此ノ如キノミナラス實際ニ於テ大ニ
窒碍スル所ナキ能ハス譬ヘハ甲乙二縣アリ
犬牙相接スルノ地ニシテ同シク歳ノ不登ニ逢フ
甲ハ地租改正ノ後ナルカ為メニ減税スルヿナク
乙ハ未タ改正ヲ經サルカ為メニ減税セサルヲ得ス
或ハ彼米價ノ如キ既往五年間ヲ平均スト
云ヒ甲乙二縣改正着手ノ緩急アルカ為メニ
米價甚相低昂スルアラハ地價モ亦隨テ多少
ノ低昂ヲ生ス(ル)或ハ因循年所ヲ經ルノ間

時論一變法未タ全國ニ普及セスシテ別ニ
一種ノ横議ヲ生スル等障害百出支フヘカラ
サルニ至ルヘシ伏ノ願クハ區々ノ小利害ニ關セス
非常ノ英斷ヲ以テ變法ノ全效ヲ達觀シ概
畧皇國全島ヲ分テ三大部トナシ中部ヲ初
年(則明治八年)東北部ヲ次年西南部ヲ
第三年ニ改正スヘキ大段落大順序ヲ立之ヲ
全國ニ公告シ向本局ヨリモ多少官吏ヲ派
出シ監視督責能ク地方ト本局トノ氣脉ヲ
流通シ全國ノ改正一手ニ出ルカ如ク又支離錯

雜ノ獘ナカラシメン是ヲ地租改正第三ノ
急務トス

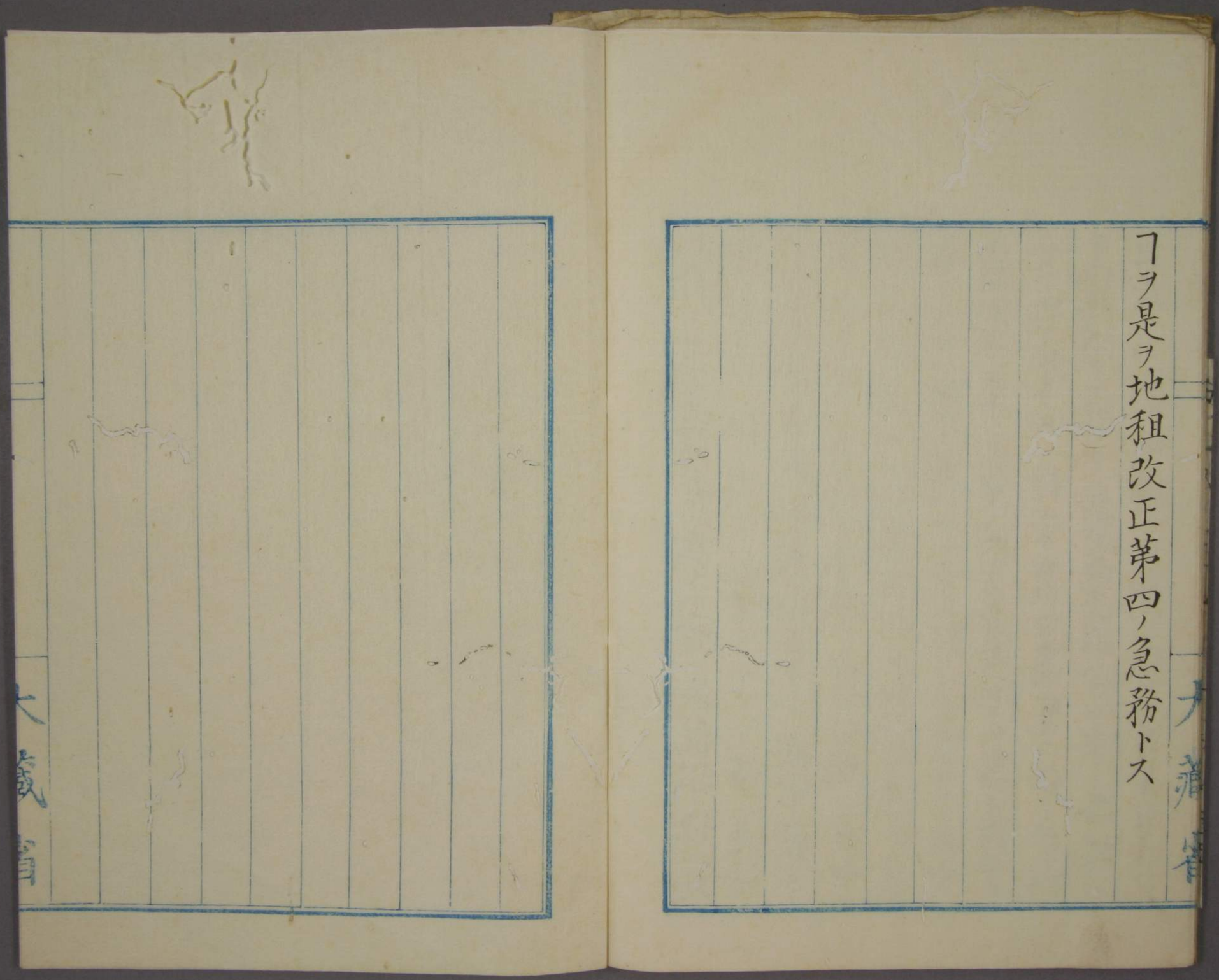
第四議

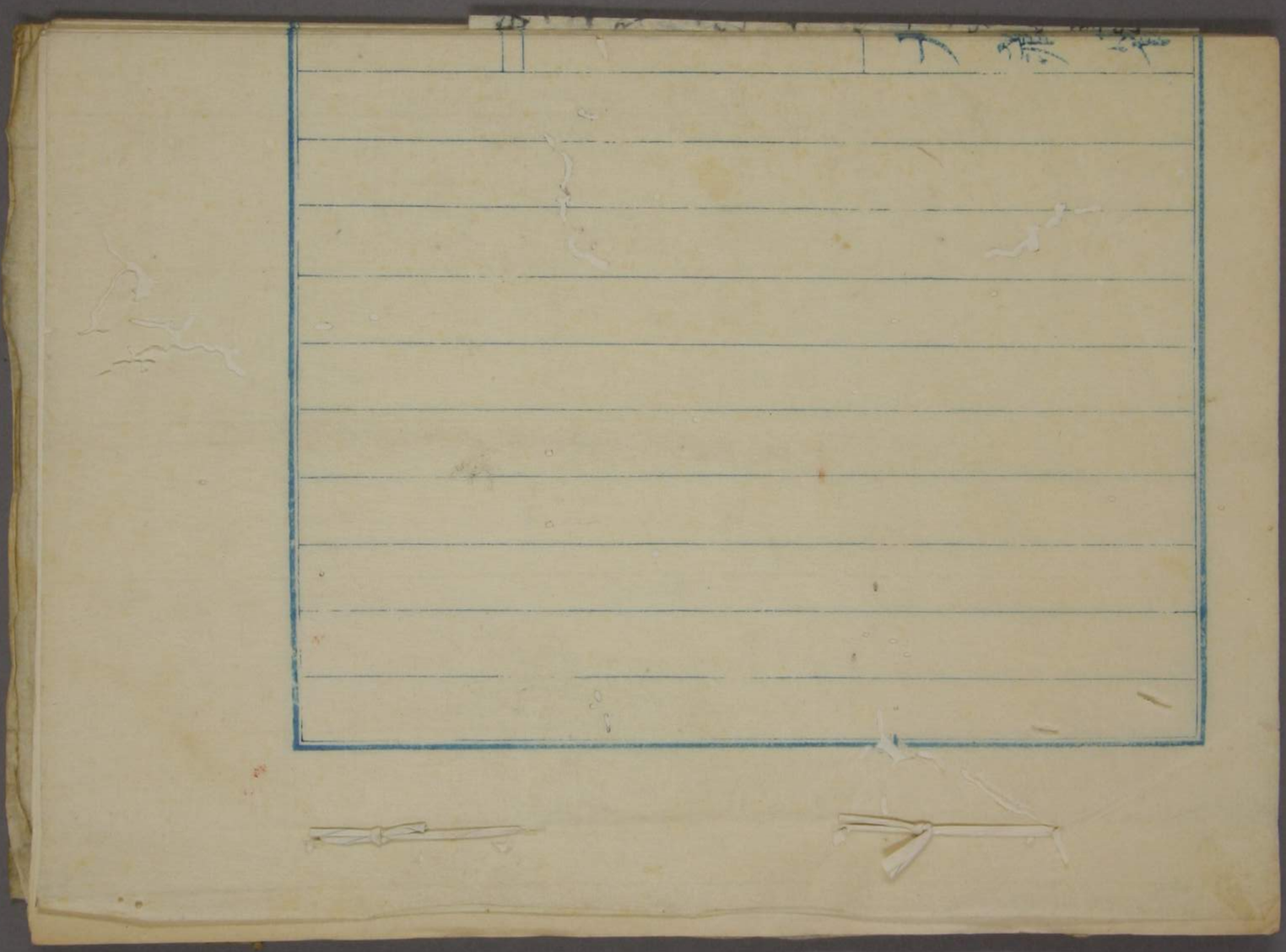
市街郡村ノ税率ヲ一ニスルヿ

尚一條ノ最緊至要ニシテ未タ議決ニ至ラサル
モノアリ明治五年以降各無税地ニ施行スル
所ノ地價百分一税法改正ノヿ是ナリ抑此法
タル地券税法着手ノ試驗ニ供スルモノニシテ
其税率ノ如キ固ヨリ確實ノ目的アリテ筭定
スル者ニ非ルヲ以テ地租改正法頒布ノ後ニ在
テハ之ヲ旧税法ノ一部分ニ屬シ他ノ郡村ト同シク
改正シテ以テ同一百分三ノ税率ニ合セシメサル

可ラサルハ固ヨリ論ナシ然リ而シテ論者或ハ區々
ノ小利害ヲ執テ其改正ヲ難ンスル者アリト云ヒ
モシ改府ニ向ヒノ公平畫一ノ旨ニ反シテ分一
分二ノ兩率ヲ設ケ府民ニ薄稅ヲ賦シ郡民
ニ厚稅ヲ賦スルハ如何ト問フモノアラハ區々タル小
利害豈能ク之ヲ辨破シ得ンヤ之ニ加フルニ此
稅法タル單ニ之ヲ市街地ニノミ施行スルニ非ス
旧来無稅ノ地ハ明治五六年間ヨリ一切此法ヲ
施行スルヲ以テ同一ノ市街ニシテ旧稅アル地ハ
旧稅ヲ存シ無稅ノ地ハ此法ヲ施行シ或ハ同一

郡村ニシテ其間ニ點在スル所ノ無稅邸地ハ此
法ヲ施行シ他ハ旧法ヲ存スルモノアリ渾テ此法
ノ行ハルヽ所市街郡村ノ別ナク全國中ニ點々
散在スル恰モ黑白ノ碁石ヲ盤上ニ飛ス者如シ
若シ夫區々タル小利害ヲ執テ此法ヲ改正スルヲ
難シトセハ公平畫一ノ旨又何クニカ在ル各縣中
ニ疑團ヲ生シテ稟問スル者少カラスト云ヒ片言
以テ之ニ答フルニ辞ナク曩日高覽ニ供シテ以
テ議決ヲ促セリ早ク改正ノ一令ヲ下シ各地ノ
臣民ヲシテ疑團ヲ其間ニ容レシムルナカラン



フヲ是ヲ地租改正第四ノ急務トス

大蔵省